

DXによる図書館サービス推進事業

郷土資料は
地域の記憶・歴史
その地域の記憶をその地域で集積し、
後世に残していく責任がある

郷土資料等の
・網羅的収集
・永年保存

資料及び
利用者ニーズの
多様化

✕ デジタル ⇨

DX による
ハイブリッド型図書館サービスの充実

《R4以前の課題》 ①郷土資料の管理・提供の両立が困難 ②デジタルアーカイブの未設置 ③電子書籍のコンテンツ充実 ④所蔵スペースの確保

R5・R6の取組

- ✓「おおいたデジタル資料室」の開設・資料拡充 ⇒ 約800点/年 デジタル化・公開
- ✓電子書籍の拡充 ⇒ 400冊/年 購入
- ✓集密書架の増設 (R5のみ) ⇒ 約50,000冊分のスペース確保
- ✓「おおいたデジタル資料室」の普及 (R6～) ⇒ 普及学習会の実施

効果 ①非来館型サービスの充実 ②資料保存機能の強化
③職員の業務効率化 ④利用層の拡大

課題 (1)デジタルコンテンツのさらなる拡充
(2)デジタルコンテンツ活用の促進

R
7
の
取
組

(1) デジタルコンテンツのさらなる拡充

- ◇「おおいたデジタル資料室」の登録郷土資料数増
(郷土資料のデジタル化・公開)
○【R6】 約1,900点 → 【R7】 約2,700点 (+800点)
○市町村所蔵資料の登録を促進
- ◇デジタル行政資料の登録促進
統計資料等の行政資料を収集、インターネットで公開
- ◇「おおいたデジタル資料室」の保存容量増
○【R6】 1,800GB → 【R7】 2,800GB (+1,000GB)
※登録資料数増のため
- ◇電子書籍の充実
○【R6】 約2,000冊 → 【R7】 約2,400冊 (+400冊)

期待される効果

★登録資料の充実 (高画質資料の提供増)

特に希少性の高い先哲史料館収蔵
史料の高画質での提供が可能となり、
アーカイブの機能が向上する



豊後国志附図 (大分郡) 【先哲史料館蔵】

- ★郷土資料・行政資料の破損・亡失の予防
- ★職員業務のさらなる効率化(資料の検索・保存)
- ★電子書籍の拡充による非来館型サービスの充実

(2) デジタルコンテンツ活用の促進

- ◇一人一台端末でのデジタル資料の活用促進
- ◇県民へのデジタルコンテンツ普及
(おおいたデジタル資料室・電子書籍の利用促進)

期待される効果

- ★幅広い年齢層に向けたDXの普及
- ★県内全域での非来館型サービスの普及